

氏名	森 藤 由 記
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 5023 号
学位授与の日付	平成 26 年 9 月 30 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	Necessity for Reassessment of Patients with Serogroup 2 Hepatitis C Virus (HCV) and Undetectable Serum HCV RNA (血清 RNA が検出できないセロタイプ 2 型の HCV 感染患者での再評価の必要性)
--------	--

論文審査委員	教授 加藤宣之 教授 草野展周 准教授 片山博志
--------	--------------------------

学位論文内容の要旨

C 型慢性肝炎では治療効果判定として、ウイルス量の定量が不可欠である。我々は抗 HCV 抗体陽性の患者において、HCV ウイルス量が Cobas AmpliPrep/CobasTaq Man (CAP/CTM) ver1 で測定されなかったが、アキュジーン m-HCV (ART) では測定される患者について、その矛盾を検討した。891 人の抗 HCV 抗体陽性患者のうち、4 人の患者が、ART では高ウイルス量であるにもかかわらず、CAP/CTM ver1 では検出できなかった。全例 Genotype 2a であった。5'非翻訳領域の塩基配列を解析すると、共通して nt145G→A と nt151C→T の変異を認めた。標準的な nt145G151C と、nt145G151T、nt145A151C、nt145A151T の合成 RNA を作成し、それぞれ CAP/CTM で測定した。その結果 nt145A を含む RNA が測定できなかった。Nt145 が G→A に変異しているものについては、CAP/CTM ver1 で RNA が検出できない可能性があり、ウイルス量の再評価を検討すべきであると考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究では、HCV 抗体陽性患者において、HCV 量測定キットの違いによって HCV 量が測定できたりできなかったりする原因を追究した。891 人の HCV 抗体陽性患者のうち 4 名では、Abbott RealTime HCV assay (ART) では高ウイルス量を示したが、Cobas AmpliPrep/Cobas TaqMan HCV assay (CAP/CTM) ver1 では検出できなかった。全例遺伝子型 2a であり、5'非翻訳領域の塩基配列の解析により、これらのケースでは、共通して nt145 が G から A に、nt151 が C から U に変異していることが分かった。そこで、nt145G151C、nt145G151U、nt145A151C および nt145A151U の 4 種類の 5'非翻訳領域に相当する RNA を合成して CAP/CTM ver1 を用いて検討した結果、nt145A を含む RNA が測定できないことが分かった。

本研究は、5'非翻訳領域の nt145 が A である場合は、CAP/CTM ver1 では HCV を検出できないことから、HCV 量の評価には慎重を期す必要性があることを明らかにした点において価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。